



撮影 / 林照翁

坂川 優氏 追悼特集号

坂川さん ありがとうございました
天国でまたまちづくりのお話しを……

活動報告

- 1月23日 第2回全国路面電車サミット実行委員会
- 1月25日 ROBA事務局会議
- 1月26日 自転車マップ部会
- 2月8日 ROBA事務局会議
- 2月13日 IRE LRT研究会
- 2月15日 ROBA例会・理事会

今後の予定

- 2月20日(水) 全国路面電車サミット実行委員会
- 22日(金) 福井市都市交通戦略協議会
ROBA事務局会議
- 25日(月) 福武線存続フォーラム(越前市)
- 29日(金) ROBA事務局会議
- 3月5日(水) IRE LRT研究会
- 10日(月) 福井市地域交通活性化会議
- 14日(金) ROBA例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

交通工学 2008 No.1 Vol.43

発行 交通工学研究会 ISSN 0454-4595

発売 技術書院 1,575円

本号は事業評価の特集です。データ収集の制約から様々な大胆な仮定のもとで行われている現在の交通事業の評価は、生命の価値や、誘発交通など、誤差の範囲では片付かない大きな争点を含んでいます。かといってやらないよりはやった方がいいのが費用便益分析です。こうした最先端の学者や行政マンの悩みが、一定の経済学の知識があれば何となく読めてしまう本です。専門家向けの雑誌ではあるが、今号に限って読むことをお勧めします。勉強会をやれば講師を買って出る会員もたくさんいらっしゃると思われれます。(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

坂川優さんの思い出 part1

私が県庁に都市計画課長として着任したのは平成12年7月であるが、当時県会議員だった坂川さんは、うさぎ型として県職員から恐れられていた。

他の議員には、国の制度の中で県の立場でできることと、支持者に納得頂けるストーリーを説明すればだいたい話は終わったのであるが、坂川さんに対応するには、都市計画の分野でも、福祉の分野でも、根本的なあり方論や、数々の選択肢の中で今の政策が最適であることの説明が求められたため、個別政策のみに精通する担当者が出向いても、県政全般に明るい幹部職員が説明に行ってもなかなか説明に満足してもらえなかったからである。

幸い、私は都市計画行政と鉄道行政の狭間での問題意識を坂川さんと共有していたこともあり、議員と県職員でありながら、現在の制度の枠の中で何かできるか、国にはどこまでお願いできるかなど、当時急を要した鉄道を中心とした交通問題の政策決定を戦略的に議論し、解決策をともに考えるという仲になれた。

当時の京福電鉄をめぐる議論が、国の政策も変え、富山のLRTの実現などにつながっていったわけであるが、その力となったのは一般県民、まちづくりの専門家など民間人の声や、市職員の先進的な取り組み、それを集約したROBAの会など草の根の動きである。坂川さんは、そうしたROBAの会の一員であったわけであるが、最初は少数意見であった鉄道の存続を同僚議員や知事等を説得し実現させ、全国から視察が絶えないえちぜん鉄道の成功への道筋をつけた政治家としての功績は誰も否定できないであろう。

えちぜん鉄道の存続は、高齢者や環境にやさしい都市へ手段の一つであり、ゴールではない。

その後福井のような取り組みを支援するため、国は地域の公共交通やコンパクトなまちづくりを奨励する数々の施策を打ち出しているが、その福井市でその実現を狙って坂川さんが提唱したのが「高感度コンパクトシティ」である。

まだ道半ばであるが、坂川さんの思いは多くの市民の血の中に受け継がれていることと思う。

美濃部 雄人

坂川優さんの思い出 part2

2月3日の朝、新聞に掲載された坂川さんの訃報に接し、一瞬我が目を疑いたくなりました。私が坂川さんに初めてお会いしたのは、一昨年6月にROBAの例会途中で挨拶に来られた時でした。私自身ROBAに入会して最初に参加した例会でしたが、市長自ら忙しい公務の合間を縫って我々の活動現場に来ていただけるのを知って大変驚き、感激したのを覚えています。

その後、ROBAの忘年会や総会、講演会等の行事でもお会いすることが多々あり、さらに個人的には、昨年2月に募集していた市長と市民の懇談の場「市長室へようこそ 県外出身者から見た福井」に応募し、参加させていただきました。この時は、私も含めた県外出身者5名から、普段福井について感じている素直な思いが市長に直接伝えられ、終了予定時刻をかなりオーバーしていたにも係わらず、全員の意見に熱心に耳を傾けていただけて、大変有意義な場になりました。

お元気になられてまたお会いできるのを楽しみにしていたのに、あまりにも早すぎるお別れになってしまい大変残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

鳥居 健

通夜にて

前の日にみんなとサミットを一緒に迎えたいと話していた矢先のことで、びっくり、とても残念です。坂川さんの方がもっと残念でしょう。

通夜は回り焼香と聞いていたので、何とかゆっくりとお別れがしたいなと思いながら出かけました。会場入口は大混雑で長蛇の列、回りの道路をぐるっと半周したところまで、300mもあったでしょうか、またびっくり。集まった人も、彼の人柄を映してか気さくな人が多く、隣り合った見知らぬ人と話しながら、ちらちらと舞う雪の中を一步ずつ進んでいきました。このごろは祭壇？にはいません、そこらあたりを吹き渡っているということらしいので、並びながら、話しながら、みんな充分に彼を偲んでいたようでした。岐路に着いたときにはすでに1時間を経過していました。

坂川さん、ゆっくりとお見送りさせていただきました、でもあの風はちょっと寒すぎでした。今度は、路面電車サミットの追い風・線の風をよろしくお願いします。一緒にがんばりましょう。

林 博

坂川優さんの思い出 part3

坂川優氏と初めてお会いしたのは、あいじつ（愛の実行委員会）の勉強会でした。今はどのようにして接点をもつようになったかは覚えていませんが、それ以来どこかでお会いした時は、とても温厚な方で私もそうですが、誰にたいしてもいつも一生懸命に接してくれていたことを今も忘れません。

印象的な出来事は、市長に就任した時に、忙しいのにもかかわらず、とあるROBAでの講演会で私の案で手話通訳を付けたらどうかと提案をした時に本来なら私が最後まで働きかけをしないとイケないのを、私の力不足で坂川さんが直接先方に働きかけて頂いた事を今も忘れません。

坂川さんは、お会いした時は必ず、握手で挨拶をして頂き元気をもらったことを心から感謝しています。最後にご冥福をお祈りしています。ありがとうございました。そしてご苦労様でした。

水野俊典

REBORN 再生

商店街の会議室で坂川さんと中心市街地活性化の議論をしていた折、お話をしたキーワードが再生を意味するREBORNだった。坂川さんは語感も良いしフェニックスにもつながるから、新駅舎と高架化が完成したら中心市街地でREBORNをテーマにしたイベントでもやりたいねえと笑いながら言われていた。えち鉄を市街地では路面電車として走らせる構想についても先見の明をお持ちだった。

県議会では県会議員と都市計画課長の立場で議論をさせて頂いたが、幸い前任の美濃部さんが国土交通省で担当をされていたこともあり、国も道を開いてくれたことを思い出す。

最後にお話をしたのは、入院先からの携帯電話でだ。相変わらずの早口と語りで、まちづくりへのビジョンや小生もかかわっている行政運営へのアドバイスを伺った。病魔との闘いへのもどかしさを感じながらも元気そうなお声に安心をしたのも束の間であった。

坂川さんの熱い想いが福井を再生してくれることを願ってやまない。心よりご冥福をお祈りいたします。

甲斐市副市長 五十嵐康之 合掌

坂川さんとお別れを惜しむ

坂川優前福井市長ご逝去。その時が来てしまった。悲しい。お通夜に並ばれた数千人の方々と同じように、告別式で、声をあげて泣いておられた方々と同じように。悲しい。

坂川さんは ROBA にとっても特別な人。京福電車の存続問題の議論のなか、99%廃止が避けられない、と言っておられた局面において、「上下分離+役割分担」という存続の糸口を見つけ出された瞬間の、「それやー！それやー！それやー！」という、大きな叫び声を、私は忘れることができない。

そして、2001年の全国路面電車サミット熊本大会。閉会間際、ステージに駆け上り、「緊急動議！何とか京福電車を存続させたい。皆さんの力をお借りしたい。」と呼びかけられたあのときのことを、私は忘れることができない。今思えば、あれは『物語り』の伏線だった。

えちぜん鉄道発足の動きのなかで、坂川さんはLRT化を主張し続けた。「えちぜん鉄道沿線の最大の都市は福井市。福井市民が便利に乗れる鉄道と、それを活かしたコンパクトなまちづくりを目指すべき。」しかし、当時、その主張の中の“地上走行”の意味がまわりに理解されることはなかった。

5年後の坂川市政。福井市は当時、課題が山積していた。そしてその全てが複雑に絡み合っていた。そのなかで、北陸新幹線の整備の過程で生じるえちぜん鉄道の運営上の危機、坂川市長は「三国芦原線のLRT化」によって、新幹線とえちぜん鉄道の両方の問題を解決するという道筋をつけた。これは決して簡単なことではなかった。坂川市長は文字通り体を張ってえちぜん鉄道を守り通した。

私は忘れることができない。坂川さんという政治家がこの福井に残した足跡を。そして、多くの市民にその早すぎる別れを惜しまれた、その人柄を。何より、緊急動議から7年の今年、全国路面電車サミット福井大会において、LRTを推進する市長としてステージに立つ坂川さんの姿を、見たかった。

清水省吾

全国路面電車サミット2008福井大会実行委員会だより / 第1号

これまでの準備委員会を経て、2007年12月17日の第1回、2008年1月23日の第2回の実行委員会を開催し、内容をつめてきています。その内容をご報告いたします。

サミット名称：第9回全国路面電車サミット2008福井大会

サミット実行委員会名称：全国路面電車サミット2008福井大会実行委員会

サミット実行委員会所在地：福井市（略）春山清水ビル3階

サミット開催日：2008年10月17日（金）、18日（土）、19日（日）

サミット会場：17日＝AOSSA 8回県民ホール

18日＝福井大学アカデミーホール

19日＝AOSSA 8回県民ホール

実行委員会にはROBAのほか、福井鉄道、えちぜん鉄道、福井市環境パートナーシップ会議、そのほか・・・からも委員としてご参加いただいています。

1日目（17日）は福井市や県内の交通施策等や国の政策等についての講演、2日目（18日）は先進事例についての講演等とサミット会議・全国路面電車愛好支援団体協議会総会、歓迎レセプション、記念行事、乗車イベント等、3日目（19日）はメインイベント（現在依頼中）、環境関係のイベント、多彩な関連イベント、乗車イベント等を計画しています。乞うご期待！

2月20日（水）に第3回実行委員会を開催予定で、現在準備を進めています。

福井大会は、全国17都市19事業者の路面電車のサミットから、広く全国に存在する地域鉄道をLRTの素材として再評価し、まちづくりに活かす取り組みのサミットへ転換する大会を目指します。

事務局 清水省吾

坂川さんが愛した福井は私も大好き

坂川さんとの出会いは私が小学生の頃です。坂川さんが選挙（何回目の選挙かわかりませんが）活動で私の家に選挙のお願いで訪ねてらしたことが初対面だと思います。小学生だったのでご本人には会わずに隠れて聞いていたせいか、「坂川」という名前が耳に残りました。それから 10 数年が経ち、大人になった私は本物の坂川さんに ROBA で出会う事になります。

忘れもしません、美濃部さんの送別会の会場で「私の仕事はコンサルですが、福井が大好きなので、まちづくりの仕事も大好きです」と言った一言に、坂川さんがとても感激して下さった事は今でも忘れません。（力強い握手もしました。）議員さんってもっと怖い人だと思っていましたが、坂川さんとは自然に話ができて、自然に接する事ができた方でした。それ以来、私は坂川さんを時にはお兄さん、時にはまちづくりの先輩、時にはお父さんのような感じで接し、そんな坂川さんと私には口に出して言える「福井大好き」の共通点ができました。（坂川さんは愛するですけどね）

共通点と言えば、坂川さんと私は「海老」が大好きです。ROBAの会合が終わりワシントンホテルで夕食をとると必ず決まって、「シュリンプソバ」「エビマヨネーズ」「エビチャーハン」のどれかを注文します。今日はこれで5食目なんやけど...と気にしつつもエビを食べていましたね。「エビ好きなんやで、これも食べね」って自分のエビを私に分けてくれたり、本当に美味しかったですね。

話は変わって、私の姪っ子は坂川さんの大ファンで、母も大大ファンなんです。ROBAのイベントも「坂川さんが来るんやけどなあ」と言うと、用事があっても絶対参加するんです。市長さんになってから福井市内の小学校を訪問する「市長の一日校長先生」がありましたね、姪っ子も楽しみに待っていましたが、一日校長先生としてお会いすることは出来ませんでした。姪っ子同様、市内の子ども達は本当に楽しみに待っていたと思います。

また、子ども達もそうですが、大人達も坂川さんへの期待は本当に大きかったと思います。福井を愛する気持ちが十分に伝わってくるから、何かを変えてくれる・何かが変わる・一緒に頑張ってみよう。と思った人はたくさんいるはずです。私もその一人で、自分が大好きな福井を、皆が「好き」って口に出して言えるような福井にしたい。と思いました。今でもその気持ちは変わりません。

市長さんを辞められてから電話でお話した時に、これからも「福井のまちづくりガンバッテ」と私を励ましてくれた坂川さん。これからも一緒に頑張りたいんだけど.....、突然お別れをすることになり、本当に本当に残念でなりません。坂川さんが愛した福井を、坂川さんの大事なみんなと、大切に育てていけるように頑張りますね。



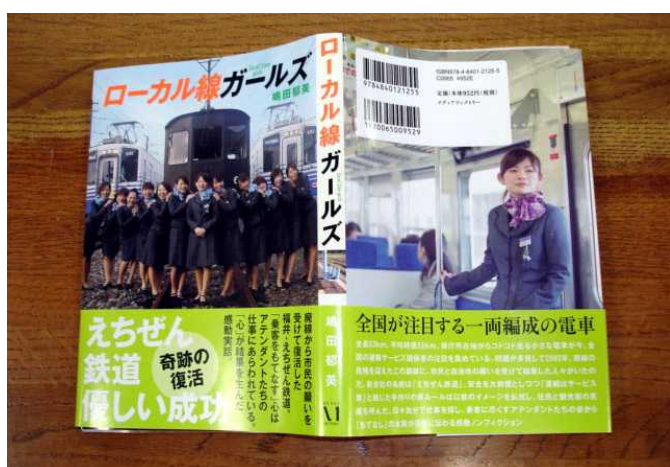
はた みゆき

ゆうじんの部屋 書籍紹介 増刊号

ローカル線ガールズ 嶋田郁美
メディアファクトリー 952円+税
ISBN978-4-8401-2125-5 C0065

普通ならワンマンが常識のローカル線にアテンダントを雇った、しかも扉の開閉等運転操作はしない。賃金に見合った運賃の増収はあるか。答えはノーであろう。でも、ローカル線が地域に求められている役割は定時に人を運ぶことだけではなく、乗客への地域情報の発信、ふれあいへの満足感、高齢者の安心も大きい。そうだとすると、アテンダントの仕事は、大きな意味を持つてくる。アテンダントの皆様が、昔のステューデスのトップクラスに匹敵する積極的なもてなしの心で、その存在意義を果たすために努力をしている姿をこの本は存分に見せてくれる。

いわゆるステューデス本の類の楽しみでこの本を手にとった人も十分満足できるし、鉄道のあり方を真剣に考えている人も、理屈を超えた迫力で感動を与えてくれる本である。福井に行く楽しみがまた増えた。



「ローカル線ガールズを読んで」

この本の出会いは、新聞での発表でありました。食いついたのは、出版がメディアファクトリーだった為、これは面白い企画になっているのではないかと思います。それはダ・ヴィンチを発売して、尚かつポケモンを世に出しているリクルートの会社だからです。なぜ、知っているのか、それは秘密です。

さて、案の定、一気に読み上げる事が出来、感動を覚えました。語り口調にふんだんに使われている写真は、車窓や車内がまるで、ことごとと電車に揺られている体感すら感じました。読み終えた時は目的地に着いた満足感とこれからまた感動をつかめる勇氣・元気を頂きました。

私は京福時代から、今現在までのえちぜん鉄道を身近に見てきただけに、アテンダントたちの苦勞や努力は並大抵なことではなかったかと思えます。当時えちぜん鉄道の会社も社員も、いろいろ暗中模索してただけに、アテンダントガールズも、必死に日々自分達で仕事を探し、乗客に尽くすというサービス「おもてなし」とは、何かを考え、試行錯誤を繰り返しながら、行動実行していたんだなあと感じました次第です。

業務日誌における日々情報共有、楽しい事、悲しい事、辛い事、嫌な事、いろんな事を書いたであろう業務日誌は彼女達の心まで、繋いでいったのでしょう。素敵なチームワークを造りあげたんだろうね。そんなアテンダントがいる電車に乗りたくなりました。みなさん、いや全国からこの本を読んだ方は、きっと、えちぜん鉄道に逢いに來たくなるでしょう。

谷口泰広

「地域鉄道とまちづくり」の研修会に参加して

内田桂嗣

2月7日 18:00 から連合鯖丹地域協議会主催の研修会が行なわれました。会場は福武線沿線にあります「ふれあいみんなの館さばえ」(上鯖江)です。

福井鉄道の再生に熱い思いの清水省吾さんが講師として呼ばれ、約 50 分の講演をいたしました。内容は以下の通り

- ・ 福井鉄道の経営悪化について
- ・ 鉄道の価値 = 社会的便益
- ・ 県管理の公共施設の利用者数と財政支援の説明
- ・ 公共交通の再定義
- ・ 鉄道の将来価値による評価
- ・ 福武線と J R 北陸線の沿線比較
- ・ 福武線の沿線の人口密度と北陸線の沿線比較
- ・ コンパクトシティ
- ・ L R T
- ・ パーク & ライド利用と車通勤の費用比較
- ・ 鉄道駅への延伸やトラムトレインを画像で説明

参加者は約 25 名。最後に質疑応答で締めくくり、70 分の研修会を終了した。終了後の参加者の話を聞くと、福井鉄道の必要性や鉄道の価値について理解が深まったとの意見が寄せられました。



坂川 優さんの思い出 part4

まずもって、坂川さんのご冥福を心からお祈りいたします。

今はただ残念で残念でたまりません。福井県にとって大切な人を亡くしてしまいました。そんな思い出でいっぱいです。

坂川さんとの思い出はたくさんありますが、その1つがワシントンホテル5階にあるチャイナテーブルです。そこはROBAの例会が終わると話し足りなくて話の続きをする2次会の場所で、お忙しい坂川さんはよくその2次会から参加されました。すでに夕食は済ませていると言いながら、ガマンできずに注文をしていました。坂川さん曰く「これが太る原因なんや！」そう言いながら京福電車復活のシナリオの検討をみんなで議論したものでした。

2つ目の思い出は全国路面電車サミット熊本大会です。2001年10月26日のこと。福井では京福電車の存廃問題で揺れに揺れている頃、どっちに転ぶかわからない状況で、坂川さん、高橋さん、清水さん、そして私が参加しました。

2001年2月にスタートしたばかりのROBAはまだ愛好支援団体になっていない時でしたが、サミット本会議で坂川さんが「緊急動議」と、会場から大声を上げて叫んだ。あまりの大きな声のため会場は一瞬静まり、壇上に上がった坂川さんは切々と京福電車の存廃問題の理解と支援を来場者に訴えたのである。その時の頼もしさ、演説の鋭さは議会でたたき上げられた本物であった・・・。

3つ目の思い出は、それは坂川さんの目線の低さです。県議の時も市長になられても目線の先は生活者でした。私たちに対しても丁寧に上から物を言うことはありません。生活も地味で贅沢をしている様子は全くありません。そういう坂川さんには何でも話ができたし、何でも話をして下さいました。あの屈託のない笑顔を私はいつまでも忘れることはありません。

坂川さん、ご指導本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

作 / 漆崎 耕次

内田桂嗣

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「オバマ！オバマ！オバマ！・・・世界の小浜！マケインには負けん？日本州に代議員はいないの？」

塚谷(副編集長)

「毒入り餃子の件で、地産地消の重要さを再認識しました」

内田(発行責任者)

「オババ！オババ！オババ！・・・福井のお婆！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>